

埋文 とやま

Toyama Prefectural Center for Archaeological Operations

2025.12.26

VOL.

173



加納南9号墳出土品（氷見市加納）
《三輪玉》

三輪玉は、**大刀**の飾りです。大刀の**把**には手の
甲側に、把を握った手を保護するための革（勾革）
が付けられています。この勾革の外側に飾りとして
装着されるのが、三輪玉です。三輪玉の材質は
金属製のものと石製のものがありますが、写真の
三輪玉は金属製の鋳造品で、中空になっています。
金属製の三輪玉は、富山県では小矢部市若宮古墳
からも出土しています。若宮古墳の三輪玉は、中
空のものと、中に鈴が入っているものがあります。
武器である大刀を振っているのに、チリンチリンと
いうかわいらしい音が聞こえるのは不思議な光景
ですね。

とておき埋文講座①●特別展「とやま歴史万博－各時代自慢の技術と文化－」
②●とやま万時代博覧会～知ってほしい富山の遺跡・遺物～

Center Flash●とやま埋文友の会・考古学少年団
古写真発掘！●井口遺跡（2） 南砺市井口

富山県埋蔵文化財センター

特別展「とやま歴史万博 -各時代自慢の技術と文化-」

とっておき埋文講座①



とやま歴史万博とは

皆さんもご存知のとおり、今年は「2025年 日本国際博覧会(大阪・関西万博)」が開催されました。しかし、万博は大阪だけではありません。ここ富山でも「とやま歴史万博」が開催されています。

「とやま歴史万博」では旧石器館、縄文館、弥生館、古墳館、古代館、中近世館の6つのパビリオンが円形に並び、各館の案内人が自分の時代の自慢の技術や文化を披露しています。そして、各パビリオンの中には博物館実習生が描いた各時代のイラストが掲示されており、華やかな空間となっています。

それでは、各パビリオンの案内人が語る自慢話を紹介していきます。

旧石器館 (自慢: 刃物)



旧石器館では、案内人の大石刃さんが石の刃物を自慢しています。

す。したがって、この館の自慢は「刃物」です。

旧石器時代の人々は動物の狩猟活動で生活していました。そして、狩猟など生活のあらゆる場面で使っていたのが、石の刃物(石器)です。

大石さんはそんな刃物の一例として、切る道具であるナイフ形石器、穴を開ける錐形石器など様々な刃物を紹介しています。

他には刃物の材料となる石も紹介しています。具体的には黒曜石や貞岩、鉄石英などです。材料の石は何でもいいわけではなく、刃物に適した鋭く尖った石片が割れる石を選んでいます。

さらに、石の刃物を作る道具も紹介しています。様々な道具を駆使して、石を割り、こだわりの刃物を作っていたことがわかります。

縄文館

(自慢: 土器)



縄文館では、案内人の栗縄文子さんが土器を発明したと言っています。したがって、この館の自慢は「土器」です。

縄文時代になると、土器が登場しました。土器の主な使い方は「土鍋」で、煮込み料理ができるようになりました。これにより、それ

まで食べることのできなかった肉・野菜も食べることができるようになりました。

そんな大発明の土器について、栗縄さんは土器で煮込んでいた食材を紹介しています。他には土器の防カビ対策である空焚き乾燥や土鍋以外の土器の使い方も取り上げており、様々な視点から土器を紹介しています。

また栗縄さんは長い縄文時代の中で作られた色々な形・文様の土器も紹介しています。多種多様な土器をぜひ楽しんでみてください。

弥生館 (自慢: 米づくり)



弥生館では米田耕平さんとその奥さんが案内人をしています。耕平さんが自分の村のお米を自慢しているように、この館の自慢は「米づくり」です。

弥生時代では米づくりが始まり、安定して食糧の生産ができるようになりました。これにより、縄文時代より人口が増加し、各地で集落が増えました。

そんな米づくりで使う農具を耕平さんは自慢しています。例えば、稻穂を摘む道具である石包丁や田

起こしに使う鍤、粉の脱穀に使う豎杵・搗き臼などです。一部の農具は現代まで形がほとんど変わらず使われていることがわかります。

また、耕平さんは弥生土器によるお米の炊飯方法も紹介しています。現代に比べるとかなり手間のかかる炊飯だったことがわかります。

古墳館 (自慢: 大きな墓)



古墳館では案内人の古墳方大さんが巨大な墓で自身の力の大きさを自慢しています。したがって、この館の自慢は「大きな墓」です。

古墳時代では豪族と呼ばれる権力者が自身の力の大きさを墓(古墳)の大きさで表現するようになり、日本各地で古墳が作られました。古墳さんは富山県最大の柳田布尾山古墳(氷見市)をはじめ県内の古墳の大きさをパネルで紹介しています。

また、古墳さんは古墳から出土する副葬品(装身具、鏡、武具、馬具など)も披露しています。中でも氷見市の稻積才オヤチB4号墳から出土した鉄刀は非常に長く立派なものです。他にも金環や勾玉など豪華なアイテムが並んでいます。

古代館 (自慢: 文字)

古代館では案内人の墨友硯さんが文字を書くことができると自慢しています。したがって、古代



館の自慢は「文字」になります。

文字は弥生時代ごろから日本でも存在はしていたのですが、文字の意味を理解して使いこなすことができるようになったのは古代になつてからです。

墨友さんは古代における文字の使用例を紹介しています。律令に関係するもの、和歌に関係するもの、文字の練習に関係するものなど様々な古代の文字が書かれた遺物が並んでいます。

また、古代の文房具も紹介しています。特に硯の形は今とは大きく異なり、プリンに似た形の円面硯や須恵器の蓋などを硯として利用した転用硯があります。今と昔の文房具の違いを楽しんでみてはいかがでしょうか。

中近世館 (自慢: やきもの)



中近世館の案内人は小杉すずさんです。すずさんが「日本各地のやきものが手に入るがやちゃ」と言うように、この館の自慢は「やきもの」になります。

中近世では日本各地でやきものが生産され、それが海運によって日本全国に流通しました。したがって、富山県内の中近世の遺跡でも

日本各地のやきものが出土しています。

すずさんはまず、富山県内に流通した中世のやきものを紹介しています。石川県の珠洲焼、愛知県の瀬戸焼、福井県の越前焼などを紹介しています。中でも珠洲焼の甕は他のやきものと比べると巨大で圧倒されます。

続いて、すずさんは近世のやきものを紹介しています。ここでは九州から富山県に流通した唐津焼・伊万里焼が並んでいます。また、富山県内で作られた越中瀬戸焼や小杉焼も並んでいます。

中近世のやきものには「陶器」と「磁器」の2種類があり、これらの違いを触って感じるコーナーもあります。ぜひ「陶器」と「磁器」を触りながら、中近世のやきものをお楽しみください。

現代館



最後におまけの現代館です。案内人はソバソバ(筆者がモデル)です。ここでは、これまで紹介した6つのパビリオンで自慢したものが現代ではどうなっているかを取り上げています。

また、来館者の方々が考えた「もし各パビリオンで自慢したものがなかったら、私たちの暮らしはどうなるか?」という問い合わせが書かれています。皆さんもぜひ自分の答えを書いてみてください。

そばじま (傍島 健太)

とやま万時代博覧会～知ってほしい富山の遺跡・遺物～

とておき埋文講座②

富山県埋蔵文化財センター 境 洋子

はじめに

今年は4月13日から10月13日まで「2025年 日本国際博覧会(大阪・関西万博)」が大阪で開催された。このことになんて「博覧会」と銘打った展示はきっと全国で開催されたと思われる。

当センターの本年の特別展も、「とやま歴史万博」というテーマである。いわゆる「万博」は、「万国博覧会」の略だが、「とやま歴史万博」の「万博」って何?と、タイトル決定後に気になり始めた。「万」は「よろず」の意味だとするなら、「万時代博覧会」としようと思い至った。

そので何か皆さんにお話しするすれば、有名無名の富山県の遺跡・遺物のことをお話したいなと思った次第である。

富山県内の遺跡

県内には、確認されているものでは約4,000箇所の遺跡がある。これらの遺跡については、「富山県GISサイト」で遺跡名・時代・おおよその位置や範囲を知ることができる。



「富山県GISサイト」のトップページ

次の図の赤い点が遺跡である。(まだ存在が知られていない遺跡もあるだろうが、大幅に箇所数が増えるものではないと思われる。)

昭和47(1972)年に発行された『富山県史 考古編』の巻末に掲載されている遺跡の数は、537である。その時すでに調査中であった全国的調査成果として、昭和50(1975)年に発行され

た文化庁全国遺跡地図では、富山県内の遺跡数は約1,200箇所に増加した。

さらに、開発工事との円滑な調整を進める意味でもいくつもの市町で管内全域の分布調査が実施され、遺跡の数は徐々に増加し、現在の約4,000箇所となった。



「富山県GISサイト」で表示された県内の埋蔵文化財包蔵地(赤い点)

県東部や南部には赤い点が少ないが富山県は高山地帯が多いため、図のような分布状況となるものである。しかしながら、立山信仰に関連する遺跡が立山連峰の山頂等に点在している。

学史に名を残す発掘調査

現在のように全域を踏査して遺跡の存在を確認する前は、どうであったか。現在、国や県の指定史跡などになっているものは、かなり以前から知られ、古くは100年以上も前に調査されたり、存在が認識されたりしていた。それらは、多くの先達の研究者達の功績である。

富山県の遺跡発掘調査で日本考古学史においても名を刻んでいるもののうち、真っ先に挙げられるのは、氷見市大境の「大境洞窟住居跡」と、同じく朝日丘の「朝日貝塚」であろう。どちらも大正11(1922)年に国指定史跡となっている。両遺跡共に、『氷見市史考古学編』に詳述してあるので、そちらを参照いただきたい(『埋文とやま』VOL.145でも県民考古学講座「大境洞窟 調査100年」として掲載)、大境

洞窟住居跡は、『越中志徵』という加賀藩の歴史家森田柿園が明治時代に著した越中郷土史に登場する。その後、大正7年洞窟内の白山社本殿を改築する際に土器・石器や人骨が出土したことが地元『高岡新報』に掲載され、中央の新聞にも掲載されたのを機に大勢の帝国大学等の著名な研究者が来て調査にあたったのである。

大境洞窟住居跡は日本で初めて層位発掘をし、このことから縄文土器と弥生土器の時代的新旧が証明されたこと、また朝日貝塚については、日本で初めて縄文時代の住居跡を確認した調査であり、そういう遺跡が富山にあるということをより多くの方々に知っていただき、自慢にも思っていただきたいと思う。



国史跡「大境洞窟住居跡」

坪井正五郎博士と富山県

現在「御車山会館」となっているところにあった佐渡家は、江戸時代初頭に高岡で町医を開業、9代目の佐渡養順の弟である良平が江戸の坪井家の婿養子となる。東京人類学会を創立し日本初の人類学者となった坪井正五郎博士は、その子息になる。

博士は、明治19(1886)年に東京人類学会を立ち上げ、後の人類学者や考古学者を育成した。

県指定史跡である「城が平横穴古墳」(埋蔵文化財包蔵地名は、「城ヶ平横穴墓群」)が明治41(1908)年に見つかった際には、坪井正五郎博士も現地を視

察している。早川莊作氏は、この時中学生（当時の中学生なので20歳）であり、魚津の天神山遺跡を博士が視察した際に魚津中学校の吉沢庄作先生と共に随行したことが、考古学に邁進する契機となったとのことである。（『早川莊作の伝記 越中考古行脚』1995年 越中石器の会、『富山県史 考古編』1972年）

富山県の考古学の先覚者として、早川氏のほかに佐渡忠作氏、湊晨氏、森秀雄氏（『開所40年記念特別展 遺跡保護のあゆみ』2017年 当センター）を筆頭として挙げられるところではあるが、「富山考古学会」の創設にあたった人々を始め多くの先達の方々により富山県の考古学研究や埋蔵文化財保護の歴史がある。

行政発掘調査の始まり

富山県が正式に専門職員を採用し、発掘調査を実施したのは、昭和44年（1969）年である。現在の富山県〔立山博物館〕の近くの「嫗堂跡・布橋跡」の遺構確認調査を行ったものだが、遺構らしきものは確認されなかったようで、現在は埋蔵文化財包蔵地としての登録はない。



「嫗堂跡・布橋跡」の調査当時の写真
(VOL.148の「古写真発掘」で紹介)

その後、北陸自動車道の整備、各地で盛んに行われたほ場整備等に伴い、膨大な量の発掘調査が実施され、平成元（1989）年以降は、さらに東海北陸自動車道や能越自動車道といった大規模な道路整備、北陸新幹線の整備、県総合運動公園や県国際健康プラザとやま健康パーク）等、富山高山連絡道路の整備や旧富山市域南部での様々な整備事業に伴い、県埋蔵文化財センターと（公財）富山県文化振興財団の埋蔵文化財調査事務所が調査にあたってきた。

県による調査以前

富山県（教育委員会）に専門職員が入る前は、どのように開発工事に伴う発掘調査に対応していたかというと、「富山考古学会」や高等学校の「地歴クラブ」の学生達が調査を行っていた。地歴クラブの活躍により調査された代表的な遺跡には、射水市（旧 大門町）の「串田新遺跡」（国指定史跡）や射水市（旧 小杉町）の「中山南遺跡」（県指定史跡）がある。また、古来知られていた富山市の「蜆ヶ森貝塚」を、富山大学考古学同好会が昭和28（1953）年に学術発掘を実施し、その報告書を富山県教育委員会が発行している。

このように、県での調査体制が整うまでは、地理歴史や考古学研究に熱心であった人々により、富山県の遺跡や遺物は保護されていたのである。

約60年間の調査成果

先ほど紹介した昭和44年の調査を始まりとするなら、これまで約60年間にわたり調査をしてきたこととなる。かつて、県埋蔵文化財センター 40年を記念して県（財団組織）が発掘調査した遺跡の中から100の遺跡を選出した。

その中の最近の調査年のは、平成27（2015）年になるが、その後、大規模な発掘調査がなされていないため、現在でもこの100選に特に変更や追加を加えることはないので、次の頁に一覧表を掲載する。

光のあたるもの、あたらないもの

遺跡でも出土品でも光のあたるものとあたらないものがある。

「スター」遺跡の陰に隠れてなかなか紹介される機会の少ない遺跡がある。古墳なんかは、「古墳」というだけで「スター」としての既得権を持っていたりする。「お城」も人気が高く、スターの感がある（あくまでも個人の感想としてではある）。

出土品のスターは、「鏡」・「勾玉」・「ヒスイ」・「埴輪」あたりだろうか。残念ながら富山県では、埴輪はほぼ出土しない。大スターの銅鐸も出土しない。他県の博物館等の立派な銅鐸をこれで

もかと並べた展示を観ると眩いばかりである。

しかしながら、特に出土品については、調査に携わった者や埋蔵文化財保護に従事している者からすれば、誰しもが、ぜひとも紹介して多くの方に知つてもらいたい、見てもらいたいものを持っているものである。当センター所員がそれぞれ紹介したい遺物はたくさんあると思うので、今後この「埋文とやま」の紙面や当センターでの展示を通じて紹介していくたらと思うところである。

出土品についても、前出の「遺跡100選」のように数年前に新聞紙面上で連載形式で各時代の代表的な出土品を紹介したことがあり、当センターのホールで切り抜きが閲覧可能となっている。



「バーチャル博物館」で
縄文土器を検索したときの画面

また、当センターのHPには「バーチャル博物館」という、収蔵している一部の出土品を紹介するコーナーがあり、各時代、種別（土器、石器、金属製品等）、出土市町村（旧35市町村）で検索することもできるようになっているので、ぜひとも御覧いただきたい。（令和7年10月19日）

第3回 県民考古学講座）

以上、県民考古学講座でお話した内容をかなり補足して本稿となったが、100年以上の歴史を有する本県の発掘調査やたくさんの出土品について、少しでも多くの方々に知つていただけるよう今後も務めていきたいと思う。

開所40年記念の際に選出した 発掘調査100選

番号	遺跡名	市町村名	時代	特 徴	番号	遺跡名	市町村名	時代	特 徴
1	直坂I遺跡	富山市 (大沢野町)	旧石器	県内初の旧石器時代遺跡の調査 出土品は県指定文化財	51	浦田遺跡	舟橋村	古 墳	祭祀が行われた古墳時代初頭の住居
2	ウワダイラI遺跡	南砺市 (城端町)	旧石器	旧石器時代の石器の組合せのあり方を証明する石器が出土 出土品は県指定文化財	52	竹内東芦原遺跡	舟橋村	古 墳	川底から見つかった、古墳時代初めの糀
3	立美遺跡	南砺市 (福光町)	旧石器	青森県産の黒曜石で作られた石器が出土 出土品は県指定文化財	53	小杉流団No7遺跡	射水市 (大門町)	古 代 (飛鳥)	よみがえる飛鳥時代の須恵器生産地
4	白岩戻ノ上遺跡	立山町	旧石器	火山灰によって年代が示される石器群	54	小杉丸山遺跡	射水市 (小沢・大門町)	古 代 (飛鳥)	国指定史跡 北陸最古の瓦と須恵器を同じ窯で焼いた瓦陶兼業窯
5	布尻遺跡	富山市 (大沢野町)	縄 文	石で区画された住居	55	上梅沢遺跡	滑川市	古 代 (飛鳥)	県東部では数少ない飛鳥時代の竪穴住居
6	長山遺跡	富山市 (八尾町)	縄 文	県内最多の土偶出土	56	安居窯跡群	南砺市 (旧福野町)	古 代 (飛鳥)	砺波郡最古の須恵器窯
7	花切遺跡	富山市 (大山町)	縄 文	県内最高所にある縄文ムラ	57	利田横枕遺跡	舟橋村	古 代 (飛鳥)	飛鳥時代の地方豪族の住居
8	東黒牧上野遺跡	富山市 (大山町)	縄 文	県指定史跡、保存状態良好な竪穴住居群	58	南中田D遺跡	富山市	奈良 ～平安	県総合運動公園の下に眠る古代集落
9	東黒牧上野遺跡	富山市 (大山町)	縄 文	切り取り保存された竪穴住居跡	59	吉倉B遺跡	富山市	古 代	古代の開発拠点集落
10	布尻遺跡	富山市	縄 文	豊富な石材を利用した、縄文時代の竪穴住居	60	任海宮田遺跡	富山市	古 代	規則正しく並んだ格子状の畠
11	早月上野遺跡	魚津市	縄 文	国内最大級の縄文時代環状集落	61	吉倉B遺跡	富山市	古 代	神通川右岸の古代の開墾集落
12	小竹貝塚	富山市	縄 文	縄文時代前期、国内最多91体の埋葬人骨	62	石名田木舟遺跡	高岡市 (福岡町)	古 代	阿弥陀三尊像を飾る瓦塔が出土
13	平岡遺跡	富山市	縄 文	竪穴住居が円弧状に並ぶ、縄文時代の環状集落	63	下佐野遺跡	高岡市	古 代	祭祀により溝に流された、飾馬を描いた土器
14	北野遺跡	射水市 (小杉町)	縄 文	県内3例目の大型木柱列	64	井口本江遺跡	高岡市	古 代 (平安)	稲作を行い、掘立柱建物に暮らしていた、平安時代の集落
15	上久津呂中屋遺跡	氷見市	縄 文	谷に捨てられた、縄文人の石器、繊細につぐられた骨角器	65	出来田南遺跡	高岡市	古 代	米を納めた荷札が見つかった、平安時代の水田経営施設
16	浦山寺蔵遺跡	黒部市 (宇奈月町)	縄 文	黒部市指定史跡、磨製石斧つくりのムラ	66	小杉流団No16遺跡	射水市 (大門町)	古 代 (奈良)	奈良時代の須恵器窯跡群 多彩な出土品、鳥形須恵器、印伝も出土
17	松原遺跡	砺波市 (庄川町)	縄 文	砺波市指定史跡、砺波平野の大規模なムラ	67	上野赤坂A遺跡	射水市 (小杉町)	古 代 (平安)	平安時代の製鉄所
18	徳万頼成遺跡	砺波市	縄 文	砺波平野内で初、縄文時代の竪穴住居	68	南太閤山II遺跡	射水市 (小杉町)	古 代	二つのタイプの製鉄炉
19	井口遺跡	南砺市 (井口村)	縄 文	県内初の環状木柱列	69	小杉流団No18遺跡	射水市 (小杉町)	古 代 (奈良)	県内初、土師器焼成窯
20	東中江遺跡	南砺市 (平村)	縄 文	五箇山の縄文ムラ	70	石太郎G遺跡	射水市 (小杉町)	古 代 (平安)	平安時代の製鉄炉
21	永代遺跡	上市町	縄 文	石器作りをしていた縄文時代のムラ	71	北高木遺跡	射水市 (大島町)	古 代	古代の祭祀場
22	吉峰遺跡	立山町	縄 文	県内最初の縄文前期集落の発掘	72	赤井南遺跡	射水市	古 代	古代北陸道に新たな説
23	二ツ塚遺跡	立山町	縄 文	立山町指定史跡、石棒をまつる住居	73	佐伯遺跡	魚津市	古 代 (平安)	重なりあった掘立柱建物
24	野沢狐幅遺跡	立山町	縄 文	台地上の縄文ムラ	74	仏田遺跡	魚津市	古 代 (平安)	平安時代の豪族の家
25	不動堂遺跡	朝日町	縄 文	国指定史跡、全国初の大型竪穴住居	75	中村大橋遺跡	氷見市	古 代	古代道「之乎路」沿いの大型倉庫
26	境A遺跡	朝日町	縄 文	ヒスイ玉と磨製石斧作りのムラ 出土品は国指定重要文化財	76	高瀬遺跡	南砺市 (井波町)	古 代 (平安)	行政発掘からの初の国指定史跡
27	新堀西遺跡	富山市	弥生 ～古墳	二重の環濠がある弥生時代後期から古墳時代前期のムラ	77	じょうべのま遺跡	入善町	古 代 (平安)	国指定史跡、全国初の莊家建物跡の確認
28	富崎墳墓群 (富崎城遺跡)	富山市 (婦中町)	弥 生	国指定史跡、県内2例目となる四隅突出型墳丘墓の発見	78	立山黒部山岳遺跡	立山町ほか ～近代	古代 ～近代	立山黒部の山岳遺跡の総合調査
29	下老子笛川遺跡	高岡市 (高岡市・福岡町)	弥 生	管玉生産量“県内最大級”の弥生時代集落	79	京ヶ峰窯跡	富山市 (八尾町)	中 世	八尾で発見された中世陶器の窯
30	下老子笛川遺跡	高岡市	弥 生	弥生時代中期の管玉生産集落も確認	80	清水島II遺跡	富山市 (婦中町)	中 世	墓道を備えた中世の集団墓地
31	下黒田遺跡	高岡市	弥 生	弥生時代中期、県内最大級の方形周溝墓	81	中名VI遺跡	富山市 (婦中町)	中 世	豊かな中世莊園を支えた治水施設
32	江尻遺跡	高岡市	弥 生	繊細な文様と黒色漆で装飾した、弥生時代の木製短甲	82	友杉遺跡	富山市	中 世	埋葬状況がわかる中世初頭の墓
33	蔵野町東遺跡	高岡市	弥 生	まつりに用いられた装飾器台	83	石名田木舟遺跡	高岡市 (福岡町)	中 世	巨大地震で倒壊した、木舟城下の家臣屋敷
34	上野遺跡	射水市 (小杉町)	弥生 ～古墳	有力者の大型住居、内部から鏡が出土	84	銭甕山遺跡	南砺市 (井波町)	中 世	県内初の中世墓調査
35	南太閤山I遺跡	射水市 (小杉町)	弥 生	台地上に築かれた方形周溝墓群	85	梅原胡摩堂遺跡	南砺市 (福光町)	中 世	大溝で区画された、中世の大集落
36	布目沢北遺跡	射水市 (大門町)	弥 生	大規模な方形周溝墓群	86	蛇喰A遺跡	南砺市 (井口村)	中 世	井戸から出土した中世のまじない札
37	下村加茂遺跡	射水市 (下村)	弥 生	弥生時代の貯木場	87	蛇喰正覚寺遺跡	南砺市 (井口村)	中 世	中世の掘立柱建物群
38	忽領浦之前遺跡	氷見市	弥 生	色鮮やかな、弥生時代の朱塗り盾	88	仏生寺城跡	舟橋村	中 世 (室町)	室町時代の土塁・堀を備えた城
39	江上A遺跡	上市町	弥 生	よみがえる弥生の農村木製農具が多数出土	89	江上B遺跡	上市町	中 世	甕の中から銅錢596枚
40	勅使塚古墳	富山市 (婦中町)	古 墳	国指定史跡 県内最古級の前方後方墳	90	弓庄城跡	上市町 (室町)	中 世	上市町史跡、絵図と一致する発掘調査
41	頭川城平横穴墓群	高岡市	古 墳	丘陵斜面に築かれた横穴墓、中からは埋葬人骨が出土	91	若宮B遺跡	立山町	中 世	整然と配置された掘立柱建物
42	板屋谷内B・C古墳群	高岡市	古 墳	治めた平野部を見守る古墳	92	木舟北遺跡	高岡市 (福岡町)	戰 国	戦国時代の区画された城下町屋敷地
43	下佐野遺跡	高岡市	古 墳	水田に眠っていた最古級の前方後方墳	93	増山遺跡	砺波市	戰 国	増山城城下町の確認
44	小杉流団No17遺跡	射水市 (大門町)	古 墳	全域調査の5世紀の円墳	94	井口城跡	南砺市 (井口村)	戰 国	南砺市指定史跡 戦国時代の平城
45	小杉流団内古墳群 (No.3.7・小杉丸山遺跡)	射水市 (大門町)	古 墳	丘陵上に築かれた群集墳	95	安田城跡	富山市 (婦中町)	近 世	国指定史跡 太閤天下統一越中攻め前線拠点
46	中山中遺跡	射水市 (小杉町)	古 墳	何度も建て替えられた古墳時代の竪穴住居	96	前田利長墓所	高岡市	江 戸	国指定史跡 前田家二代当主前田利長の墓、その大きさは大名墓では国内最大級
47	柳田布尾山古墳	氷見市	古 墳	国指定史跡 日本海側最大の前方後方墳	97	高岡城跡	高岡市	江 戸	国指定史跡 加賀藩主二代目前田利長の隠居城
48	中谷内遺跡	氷見市	古 墳	川で祭祀をした、古墳時代のムラ	98	越中瀬戸焼窯跡群	立山町	江 戸	窯跡伝承地で発掘、実証された越中瀬戸窯
49	加納南古墳群	氷見市	古 墳	県内唯一の挂甲出土、有力者とその近縁者の古墳	99	棚山窯跡	朝日町	江 戸	江戸時代後期 舟見焼の窯場
50	五社遺跡	小矢部市	古 墳	県内最古の、カマドを備えた古墳時代の竪穴住居	100	中世城館総合調査	県下全域	中世 ～近世	県内城館遺跡423箇所の総合調査

Center Flash

とやま埋文友の会

当センターでは、展示及び普及事業に積極的に参加し、郷土の歴史や文化財への理解を深めていただくとともに、会員相互の親睦と交流を図っていただくことを目的に「埋文友の会」を設立し、平成16年4月から活動を行ってきました。会員の募集は毎年3月から行っていますので、興味のある方、考古学や歴史の知識を広めたい方、奮ってご入会ください。お待ちしております。

活動

- ① 会報「友の会ニュース」の発行
- ② 遺跡探訪バスツアー（日帰り）（参加費別途）の実施
- ③ 展示解説会の開催
- ④ 冬のじっくり講座の開催

この4つは会員限定です！

遺跡探訪バスツアー



令和7年11月1日(日) 開催

特典

- ① 当センター発行の
展示図録・所報「埋文とやま」が届きます
- ② 当センターが行う展示の案内が届きます
- ③ 当センターが行う県民考古学講座の案内が届きます
- ④ その他県内外の考古学情報などが届きます

会費

年1,000円（年度途中の入会でも会費は同額となります）

会員の期間

4月1日もしくは入会した日から、翌年3月末まで

お問い合わせ

富山県埋蔵文化財センター 友の会担当まで

冬のじっくり講座のようす



令和7年2月9日(日) 開催

第4回 考古学少年団のようす



令和7年9月21日(日) 開催

考古学を学んでみたい方、日本の歴史を深く理解したい方、本物の土器や石器に触れてみたい方は、「考古学少年団」の団員になってみませんか。

団員は随时募集しており、応募のしめ切りはありません。

興味のある方は、お気軽に当センターへお問い合わせください。

団員資格 県内の小学6年生～中学3年生（義務教育学校6～9年生）

団員の期間 入団の日から中学校卒業まで

※毎年3月に継続の確認をします。いつでも入団可能です。

活動場所 富山県埋蔵文化財センター ほか

活動の回数 年間10回（月1回）程度

※主に日曜日（土曜日・祝日の場合もあります）の午後2～3時間程度。毎回参加しなくてもOK。

※くわしい活動の場所・時間・内容は、手紙でお知らせします。

団員手帳 入団した方には団員手帳を発行します。

費用 入団費・会費ほか、**すべて無料**

保険 当センターでレクリエーション保険に加入します。

《申し込み方法》当センターのホームページから、申込用紙をダウンロードして郵送してください。

古写真発掘!—《27》



いのくち 井口遺跡 (2)

昭和54年（1979年）撮影

南砺市井口

前回のVOL.172に続き、井口遺跡です。

昭和53（1978）年に第1次調査（試掘調査ほか）が実施され、昭和54（1979）年に第2次調査として約3,000m²の本発掘調査が実施されました。

昭和37（1962）年の区画整理で遺構のかなりの部分は削平されてしまったようですが、柱穴等から約20を数える竪穴住居跡や建物跡が見つかったほか、大量の縄文土器が出土しました。

上の写真は、発掘区を東から撮影したものです。奥に山田川が見えます。

下の写真は、当時は住居跡と考えられましたが、その後に石川県での発掘調査の例等から、今では環状柱穴列（環状木柱列）と考えられている遺構です。

また、「井口式」として北陸の縄文時代後期後葉の基準資料となった大量の土器は、平成21（2009）年に再整理し、出土品集を刊行しました。



「井口式」土器

編集後記

落ち葉の季節がまたやってきました。センターの玄関前の落ち葉を日々掃除しているのですが、モチベーションを上げるため、集めた落ち葉で焼き芋をするという想像をしています。焼き芋といえば、サツマイモかじゃがいもかの選択ですが、どちらも外来種。日本に来たのは何時かを調べてみると、じゃがいもは1603年、サツマイモは1615年だそうです。そんな豆知識も得て励む毎日です。

（担当 青山）

富山県埋蔵文化財センターニュース「埋文とやま」VOL.173

令和7年12月26日発行 編集／富山県埋蔵文化財センター 〒930-0115 富山市茶屋町206-3 TEL076-434-2814
URL <https://www.pref.toyama.jp/3041/miryokukankou/bunka/bunkazai/maibun/index.html>



この印刷物は、印刷用の紙へ
リサイクルできます。

